

# 毎月 新聞 ごはん

第 2 0 号

2006年1月

発行者

リトル・スター・レストラン

インターネット無線スポット

FREE SPOT

あります。

「毎月新聞ごはん」は、リトル・スター・レストランが発行している新聞です。



ふしぎなまじろく。

Little Star Restaurant  
リトル・スター・レストラン / Mitaka, Tokyo

tel: 0422-45-3331  
www.little-star.ws

## 自家製だから、 旬のおいしさ。 季節の果実酒、 できました。

リトル・スター・レストランでは、自家製の梅酒二種類を定番でご用意しています。これは毎年六月、青梅の季節にスタッフ総出で仕込む、こだわりの果実酒です。

そしてさらに季節ごとに、旬の果実を漬け込んで、期間限定の自家製果実酒をお作りしています。

今年は一月には山桃酒、二月には花梨酒や金柑酒が登場する予定です。

昨年は大人気で売り切れ続出した限定果実酒も、今年はいつも季節ごとの味が楽しめるよう、三月にはいちご酒やストロベリーワイン、オレンジ酒やレモン酒など、続々と季節のおいしさを果実酒にしてお届けする予定です。ご期待あれ！(麻)

### 小星★人語

日本各地にはそれぞれ土地の「名物」「名産品」がありますが、人へのお土産に便利なのは、やっぱり菓子類でしょう。東京で言えは「雷おこし」か「人形焼」でしょうか。最近では「東京はなな」でしょう。

うか▼お正月は相方の実家・山口へ一緒に帰省しました。山口の土産菓子といえば地元では「ういろう」ですが、これは名産屋の方が有名です。山口に全国区で名高い土産菓子は残念ながら見当たりませんでした。▼修学旅行で訪れた京都では「生八つ橋」のおいしさに感動しました。清水寺に続く清水坂に軒を連ねる生八つ橋店の試食品を片端から食べて行き、自分なりに一番おいしいと思ったお店で土産を購入しました。▼小さい頃にもった一番のお気に入りの土産は、北海道の「白い恋人」でした。北海道はバターサンドやホワイトチョコレートなど土産菓子の宝庫。けれど幼いときの感動が生きていて、未だに「白い恋人」が一番好きです。▼カステラと言えは文明堂だった中学生の私に、意識革命を起こした福砂屋のカステラは、長崎のお土産の定番。しっかりとした生地、底面についたザラメ。長崎出張が多い父の得意のお土産です。▼年末年始の休暇が明けて、スタッフそれぞれがお土産を配り、土産話を花を咲かせつつお菓子をパクリ、楽しいひととき。その上お客様からも、お土産やお年賀をいただきました。ありがとうございます。当分は楽しいおやつ時間が続きそうです(麻)



# 十年

くらい前のことです。私は友達と卒業旅行と称して館山に行きました。車の免許を持っていたとはいえ、まだ他人を乗せて遠出するのは不安だったので、電車とバスを使いました。バスの窓からは、道路沿いに黄色い菜の花が咲いているのが見えました。宿に着くと明るいうちに、付設するコートでデニスをしました。この宿は、雑誌で見たのですが、ここに決めた理由の一つは、テニスコートが使えるからでした。私は、ペンションというものに泊まったことがなかったので、泊まってみたかったというのがあります。そして、もう一つ。このオーナーはシェフをしていた経験があって、食事がおいしいということからで

# 旅の

その8  
白ワイン

うま  
うま  
うま。



すうりとし  
きれいなブル  
ボトル



とりどりの花があふれる 館山

した。  
さて、夕食。出てきたフランス料理は、予想通りおいしく、満足しました。でも、それ以上に印象に残ったのが、ワインでした。おいしいワインがあるんです、いかがですか。そうオーナーに勧められて、せっかくだから頼むことにしました。  
運ばれてきたのは、ドイツの白ワインで、すうりとした美しいボトルでした。フルーティな香りと、甘い味。すごくおいしくて、それ以来ドイツワインを好きになりました。その後、赤ワインなど他のものも好きになるのですが、今思えば、私がワインを好きになったきっかけとなったのが、このときでした。(圭)

# チ

ーズケーキといえども、世の中には星の数ほどのチーズケーキあり。しかしリトル・スター・レストランでは、これを王道！とも言つべき、シンプルなバイクドチーズケーキをご用意しています。クリームチーズをあえて混ぜすぎずに、しっかりとした口当たりに。濃厚のチーズの味、コクのあ  
るおいしさは、コーヒーや紅茶はもちろん、ワインにもよく合います。一度食べたなら病みつきに!!



LSR Collection  
リトル・スター

vol.08

ああ、麗しのチーズケーキ

## 旬な話

にやまつたて



合もありますが、思いも伝えます。私は電話も苦手なので、友人達に手紙を書きます。相手はどう思うだろう、返事を書かなくてはならないな、面倒だななどと思うかもしれない。そんなふうに思ったこともありました。でも、自分が友達から手紙を受け取ったときに、すごくうれしかったのです。だから、大丈夫と思いました。

年の瀬はたはたしていたかと思うと、あっという間に年が明け、お正月です。お正月の楽しみが、年賀状を見ることがです。ポストをあけると、年賀状が届いています。この一年で、何度か会った人もいれば、一度も会えなかった人もいます。特に、会えない人とは、この年賀状のやりとりがお互いの近況を知る唯一の手段です。パソコンが普及して、写真やイラストの加工が簡単にになり、年賀状も賑やかです。子供がいる人は、子供の写真が使われていることが多いので、その成長ぶりに驚きます。

年賀状というと、義務みたいなので、出すのが面倒だという人もいます。確かに、仕事関係などではどうかしれません。でも私は年賀状を書くのが好きです。もともと話が苦手なせいで、手紙を書くことが好きだからでしょう。相手のことを思い出しながら書いていくのは、時間のかかる作業ですが、楽しいものです。文面は必ず、手書きにします。枚数が少ないせいもあります。自分かもらったらうれしいなと思うのです。手紙は、言葉を伝えます。単なる情報の場合

先日、常連のお客様が帰る際に、「心に灯をあげよう」と言いました。私は一瞬、何のことかわかりませんでした。そしてすぐに、気がつきました。お客様が席に着いてから、私はキャンドルに火を点して、彼女の前に置きました。そのことだったので、彼女は仕事で疲れたときでも、うちのお店のおいしい料理を食べて、元気になって帰ります。そのときも疲れていたのかも知れません。キャンドルが置かれたことで、ほっと安らいだのでしょう。彼女が言葉をくれて、私は気がつきました。ほんのささいなことでも、お客様がうれしかったということに。逆に私は、そのことを伝えてくれてありがとう、と言いたい気分でした。これからも、言葉で伝えていきたい、声に出して、あるいは、文章で。今年は、そんな思いから始まりました。(圭)

fukazawa's choice



『白鳥の王子ヤマトタケル[大和の巻]』

黒岩 重吾 角川文庫

miyazaki's choice



『江分利満氏の優雅な生活』

山口 瞳 新潮文庫

hieshimas choice



『天使などいない』

永井 するみ 光文社文庫



深澤圭子

keiko fukazawa

宮崎麻美

asami miyazaki

神島ゆづ子

yuko hieshimu

★今月のお題★

雪の降る夜に読みたい本

テーマに応じて本をオススメする「本のソムリエ」。空気が凍る、雪のシンシンと降る夜。ソムリエが手に取りたいオススメ本は？

判官びいきという言葉があるように、日本人は源義経が好きである。そして、ヤマトタケルという人物も好きである。彼らの共通点は、不本意にも追われてしまったこと。父や兄に近寄ろうとすればするほど、理解されず、疎まれる。その能力や人望故に。彼らはどこか悲しい。ヤマトタケルは死して、白鳥となり、大空高く飛んでいった。自由をつかむために。

華やかな賑わいの中で食べる幸せもあれば、静けさの中でジワリとかみしめる幸せもある。いや、そもそも幸せは、何気ない日常の一場面を感じる方が、しみじみと味わい深いものだと思う。家族という身近で、ありがたく、時に煩わしい人たちに思いを馳せ、自分なりの幸せを見つけるには、音ささへ凍る、静かな雪の降る日がふさわしい。

自分だけ知っていてごぶごぶファン冥利を味わいたい、永井するみは私にとってそういう作家だ。氏の描くヒロインがかなり好きだ。よくも悪くも自分でケリをつける。「自分の人生でしよう。」と声に出さずに行動で示すのだ。『だって天使などいないんだから』。雪の日に暖かな部屋で読むと、ぞくぞくとする程切れ味の鋭いミステリ短編集なのです。

Sommer de vivre



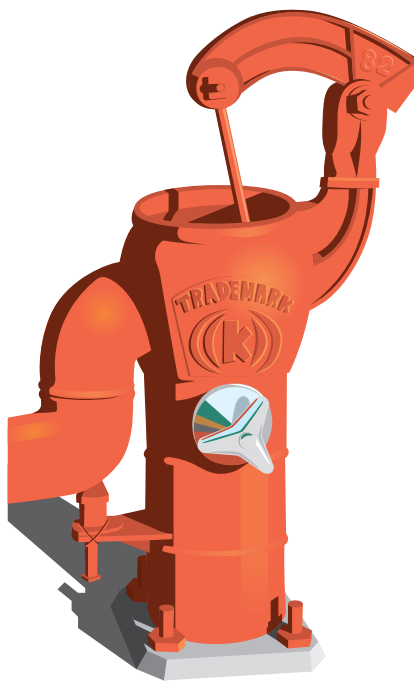


■今年もよろしくお願いいたします。  
 お店の営業はすでに10日から始まっておりますが、この小さな毎月新聞「ごはん」も遅ればせながら新春号。お店共々、今年もみなさんのご愛顧・ご愛読よろしくお願いいたします。

■2月の連休のお知らせ。

月に一度ほど連休をいただいておりますが、1月は年始年末休業をいただいたこともあって、定休日以外のお休みはありません。2月は次の日程で連休をいただくことになっております。よろしく願いたします。

2月19日(日) / 20日(月)



■中澤恒夫展、開催中です。

当店の旧外看板や店内の棚受けなど、鉄を使った作品を作り続ける鍛冶屋・中澤恒夫さんの作品展、好評開催中です。

今回は、彼が製作に使う道具などを通して彼の仕事「鍛冶」そのものも理解していただける作品展となっております。

また今回は展示だけでなく、販売も致しております。

ぜひ表情豊かであたたかみのある鉄の作品をお楽しみください。



編集後記

1月は「行く」と申しますが、はや後半戦。寒い間にコツコツ積み重ねたことが、きつと春に花を咲かせるわけですね...ってなにも出来てないままに春を迎えるのだけは避けたいと思う今日この頃です。(お)


「毎月新聞 ごはん」、置いていただいています。

南口中央通りの「古書 上々堂」さん、さくら通りの「三鷹の森書店」さん、吉祥寺通り、三鷹の森ジブリ美術館向かいの天然酵母のパン屋さん「コミュニティ・ベーカリー 風のすみか」さんにこの小さな新聞を置いていただいています。

ありがとうございます。

**Clip**

年末は僕らがお店を貸し切って忘年会。いつもアタマに手ぬぐい、白いシャツのスタッフですが、ええ、こんな感じだったりします...小さすぎてわかりにくいのは、ご愛敬(笑)。(お)



★ Little Star Restaurant  
 リトルスターレストラン / Mitaka, Tokyo



東京都三鷹市下連雀 3-33-6 三京ユニオンビル 3F  
 Tel+Fax 0422-45-3331 e-mail info@little-star.ws

●定休日：毎週月曜日

●営業時間：11:30 ~ 24:00

(土日・祝祭日は 12:00 開店 / 日祝祭日 23:00 閉店)

フード・ラストオーダー 23:00 (日祝祭日 22:00)

ドリンク・ラストオーダー 23:30 (日祝祭日 22:30)



PCでも携帯でも▶▶▶▶ <http://www.little-star.ws/>